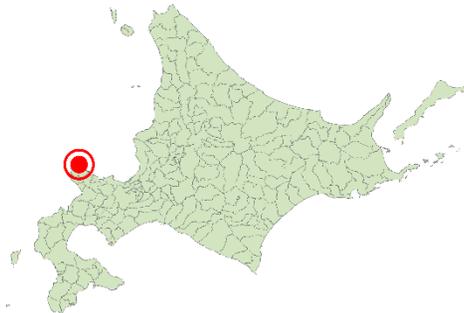


資源を有効利用した循環型の藻場保全

美国・美しい海づくり協議会

地域概要

当地区は、積丹半島の積丹町に位置し、日本海に面す。積丹の語源はアイヌ語で、シャクとコタンの二語を合わせたもので、シャクは夏、コタンは村または郷土のことで、シャクコタン(ShakKotan) 夏場所という意味からきている。この地域は古くから漁業が盛んで、特に明治から大正にかけてニシン漁により栄えた。また、ニシン漁を行う漁師たちが、ニシンでいっぱいになった網を引き揚げるときの「力入れ」の唄である「ソーラン節」が誕生した地でもある。



活動の背景

当地区には、コンブ場が広がっており、その藻場で育まれた豊かな磯根資源を古くから利用してきた。しかし、20年以上前から磯焼けが確認されるようになり、その規模が徐々に拡大している。そのため、アワビなどの資源は激減し、実入りの悪いウニが増え、磯根資源の生産量が減少している。また、天然コンブの水揚げも大きく減少してきている。こういった状況を改善すべく、漁業者が中心となり、磯焼けの改善を行う活動を開始した。当初は、海域の水中の状況に詳しいダイビングショップにも協力してもらっていたが、現在は漁業者自らがダイビングのライセンスを取得し、作業を行っている。



活動方針

活動の目的は、藻場の再生を促すことである。また、この活動を通じて、ウニの実入り改善や磯根資源の回復を目指し、持続可能な漁業が行える体制や環境づくりを進めたいと考えている。

藻場再生を促進するための方針は、磯焼けの進行している海域において、①ウニ類の除去、②母藻の設置、③栄養塩の供給を行うこととした。

活動実績

(1) ウニ類の除去 (食害生物の除去)

除去活動は、対象海域においてスクーバ潜水によりウニ類を採取し、船上に水揚げする。その後、除去したウニ類を、原則として、他の健全な藻場に移植し、資源の有効活用を図る。



(2) 母藻設置

母藻設置は、現存する良好な天然藻場から対象となるコンブを採集し、鎖(ステンレス製)に結び付けて設置する。



(3) 栄養塩の供給

① 栄養塩供給部材の設置

部材の設置は、市販されている SF ブロック(藻場施肥ブロック: 主原料は水産加工残渣)を船上から投入し、潜水作業により適切な位置に設置する方法で行う。



また、以下に示す自作のウニ殻肥料をカゴに入れたものをアンカーで固定し、対象海域に設置する取り組みも併せて実施している。

② ウニ殻肥料の作成

ウニ殻肥料は、当地区で加工するウニ類の殻を、藻場の再生に有効活用しようと考え、開発した肥料である。

ウニ殻肥料は、主に以下の3段階の工程で作成する。

- ・自然乾燥させたウニ殻をスコップ等で適度な大きさに粉砕する。
- ・水道水で2~3倍に希釈した天然ゴムと混合する。
- ・バケツ等の容器で適度な大きさに形成し、乾燥させる。

注意点としては、天然ゴムの固形時間は気温により変動するため、希釈の倍率と混合量を調整する必要がある。



活動の成果と課題

(1) 活動の成果

定量的な評価として、ウニの生産量(積丹町)の推移を以下に示す。2014年に大規模な磯焼けが発生したため、2015年度の生産量は激減している。しかし、この取り組みを行うことにより徐々に水揚げ量は回復傾向にある。また、定性的な成果として、漁獲されるウニの実入りが改善されているという声が、漁業者から聞かれるようになった。



(2) 今後の課題

2014年の磯焼けの拡大以降、徐々に藻場の被度には回復傾向がみられる。しかし、磯焼けが続く箇所も一部あることから継続した活動が望まれる。

今後の展望としては、これまで取り組んできた活動の成果を、より多くの人に知ってもらいたいと考えている。また、漁業とは直接関係ない人々にも海の大切さや漁業者が行っている取り組みについて知ってもらう機会をつくっていきたい。